

**令和4年度 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会
第4回会議 議事要旨**

【日 時】令和4年（2022年）9月9日（金）18時～19時30分

【場 所】第二庁舎3階第大会議室

【出席者】石川委員、岸本委員、高橋委員、吉村委員、田村委員、古川委員、濱田委員

【欠席者】重長委員

【事務局】都市経営部経営計画課：森田、坂本、田中、久木、上田、松田

【傍 聴】1名

【案 件】1. 人口ビジョン（行政素案）及び第3期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略（行政素案）に関する答申案について
2. その他

【資 料】資料1 第4次豊中市総合計画後期基本計画（行政素案）

資料2 人口ビジョン（行政素案）及び第3期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略（行政素案）に関する答申案について

資料3 （抜粋）第3期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略（行政素案）

参考1 第1回豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会 議事要旨

参考2 令和4年度（2022年度）豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況の検証等について（答申）

参考3 市民ワークショップの報告について

【会議録】下記のとおり

■開会

■成立要件の確認

本会議規則第6条第2項の規定に基づき、会議成立には委員の過半数の出席が必要です。本日は委員総数8名のうち、現時点で6名の出席がありますので会議は成立しています。なお、1名の委員につきましては、少し遅れて参加される予定です。

■資料の確認

■「1. 人口ビジョン（行政素案）及び第3期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略（行政素案）に関する答申案について」

会長

案件1「人口ビジョン（行政素案）及び第3期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略（行政素案）に関する答申案について」について、事務局からご説明をお願いします。

事務局

（資料3「（抜粋）第3期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略（行政素案）」について説明）

会長

ただいま説明をいただきましたが、前回の委員会で委員の皆様にお話しいただきました意見を反映した資料になっています。前回まで「KGI」と呼んでいたものが、上位計画である総合計画の審議会の委員の皆様のご指摘で「目標達成を測る指標」となりましたが、たしかに市民の皆様に関わりやすい表現ということについては特に反論もないです。「KPI」については国が言っているからそのままということについては、一方では矛盾してしまうところを残してしまうかと思いません。

委員

事務局のほうで、我々のコメントに対して寄り添うような修正をされたということで、我々としてはやりがいがあり、非常に結構なことだと思います。それを否定するのもどうかと思いますが、「待機児童ゼロの維持」であるとか、「子育て応援クーポンの配布」であるとか、具体的な取り組み例を書かれており、それは前回と比べると非常に前進かと思えます。ただ、挙げられた具体例が、本当に出生数を増やすことになるかどうか、思い付きではないことを押さえておくことが必要だと思います。例えば、具体例の項目の後に括弧を入れて、フィンランドの事例であるとか、或いは日本のどこかのエリアの増えている実際の例が書かれていたら、説得力を持つのではないかと思います。人口を増やそうという明確な目的に添った説得力のある文章にすべきではないかと思います。世界的に人口減を間違いなく迎えるであろうという環境のなかであって、人口を増やそうという取り組みは重要だと思っていますが、本当に具体的に増やしていくことについて、もう少し積極的になってもらいたい気がします。まち・ひと・しごと創生総合戦略ができてから7年が経ち、日本全国の市町村が取り組んだはずだと思いますが、結果として人口が減り続けている現状があります。その取り組みがまだ時間的に足りないから今は仕方ないのか、ほとんど効果がない無駄な努力であったのかという検証は多分されていないと思います。本気で人口を頑張って増やして行こうという思いが、まだまだ足りないのではないかという気がします。

会長

国が出来ることと自治体が出来ることは何なのかということをお我々は知り、うまくいっている自治体が行っていることを参考にしたりし実行していかないと、全体の動きというのはなかなか進んでいかないでしょう。また、給与など所得が上がらない中で、子どもを産んで育てていくということに対する不安感もあるでしょう。委員がおっしゃっていただいたことは、数字を示したり、計画を示したりするだけではなくて、読んでいる皆様に影響力のあるものに本来であればしていきたいということだと思います。事務局のほうからお話ありましたらどうぞ。

事務局

少子化対策につきましては、市議会のほうでも非常に興味をもっている案件でして、市議会議員の方と意見交換をしているところですが、その中でやはり少子化対策というのは待ったなしで、自治体に出来ることをどうやって取り組んでいくのかということからは、市議会でも議論したいという声をいただいています。地方自治体としてできることと、国全体でやらないといけない部分というのは両輪であると考えており、一方、少子化対策で自治体にできることは何だろうと突き詰めていくと、やはり子育て環境、教育環境ということかと思っています。国の報告等を見ても、結婚し

ているご夫婦で、二人目をつくるかどうか考える時に二の足を踏むのは、高等教育にかかる費用であるとのデータがあります。また一方で、まだ結婚していない方が結婚に二の足を踏むというのは、所得の問題であろうというデータも出ています。それらを総括して思えば、会長からご指摘があったように、給与など所得が上がらない中で、それで果たしてという部分があるのかと思います。一方で、基礎自治体として何も出来ないのかと言うとそうではなくて、本市におきましては、待機児童ゼロの維持というところに込めている意味は、共働き世帯をしっかりと応援していき、子育てができるだけ負担にならないようにする施策をやっていくということであり、非常に重要だと思っています。また当委員会でも待機児童ゼロだけではなくて、保育の質の部分はどうやって高めていくのかということも非常に重要だというご意見をいただいておりますので、そちらの方もしっかりと取り組んでいこうと考えています。

委員

本来人口増の議論であるべきところだろうと思いますが、それが途中ですり替わって、良い社会をつくろうということになっているように感じます。人口増と良い社会をつくろうということは、全然無関係とは言いませんが、解決策とは言い難いと思います。耳に心地良いから、良い社会をつくろうというのは誰も反対する人はいないので、そっちに流れていくと、本筋とは違うのではないかと思います。ここのテーマは人口を増やそうという具体的なテーマがあるわけなので、良い社会をつくろうみたいな言い方で終わってほしくないという感じがします。世界から憧れられ、良い社会じゃないかと言われている北欧ですが、人口が増えているかと言うとそうではないという話もあるし、過去の歴史の中で日本の人口が激増した時代があるわけですが、その時がそんなに良い社会だったのかどうか。良い社会と人口が増えるというのはイコールではなく、全く別の議論だろうと思います。ここはやはり、人口を増やすための特化した具体的な議論を進められるべきではないかと思っています。

会長

目的をはっきりさせて、目標意識をもって、それを達成させるためには何をやっていくか。その時に無駄をそぎ落としていくという事は必要です。委員のご指摘は我々も肝に銘じるような話かというように伺いました。

委員

ビジネスの世界も同じようなことで、何が言いたいのかとか、目的とマッチしていないということとは日常茶飯事で交わされる言葉だと思います。

委員

根本的にはそうだと思いますが、具体案となるとすごく難しいと感じています。

委員

KPI も減らしていただいて、本文との関連づけもできていて、全体的に分かりやすくなったと感じています。その中で少し気になったのが、「第2章 安全に安心して暮らせるまちづくり」のところで、KPI がすべて市民意識調査になっているところです。確かに全体を網羅している形の KPI を

設定するうえで市民意識調査のウェイトが増えるというのは分かるのですが、下の補足的な指標の中からいくつかはKPIの方に格上げしてもらってはどうかと思いました。特に、前回入っていなかった「けんしん受診率」というのは大事だと思います。子育てから少し離れるかもしれませんが、高齢者にとっては深刻な問題です。これに限らず、KPIのほうに格上げできないかと思いました。

委員

指標の表現など前回より分かりやすくなったと思いました。ただし、この2～3年のいろいろな状況の変化を今後どのように進めていくのかは大変難しいと思っています。ヤングケアラー支援のような新しい問題も出てきて、世の中が注目するものがどんどん変わっていくこともありますし、基本的に見ていくことと新しい関心をどう捉えていくかは、難しい問題だと思いながら見ていました。来年のことを今ここで考えているけれど、来年どうなっているか本当に分からないということを考えながらこれを読んでいました。

委員

基本的な考え方となすべきことと、それを達成するための指標のつながりが見にくいという指摘に対して、こういう修正案を示していただき、しかもKPIについては、より重要度の高いものだけを残し、非常に分かりやすくなっていると思います。ただし、戦略というのはストーリーがあると思っています。物語を読んで、なるほどこうすれば人口増という元々の基本的な考え方に繋がること分かるように、よりもう一步踏み込むと良い戦略になるのではないかと感じます。見やすくなるはりましたが、これをこうすれば本当に人口が増えるのかなと曖昧に終わってしまう残念な部分もあったりしますので、言うのは簡単で、作るのは本当に大変だと思いますが、是非そういう戦略にしてもらえたら良いのではないかと思います。

会長

ありがとうございます。続きまして、再度「人口ビジョン（行政素案）及び第3期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略（行政素案）に関する答申案について」説明をしていただきたいと思います。

事務局

（資料2「人口ビジョン（行政素案）及び第3期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略（行政素案）に関する答申案について」説明）

会長

資料2「審議結果」の2ページ、3ページでまとめていただいている言葉ですが、文章にするために若干の手は入っていますが、事務局が取りまとめをされるにあたって、これまで議論していただいた言葉をしっかりと練り込んで作っていただいております。その経過などについてもいろいろと話を伺いさせていただきましたので、この委員会の意見を反映されているものと理解しています。ただし、伝え方、文書でどうも違うのではないかとのご意見などあるかと思いますが、これが最終的な答申の審議結果として伝わっていくものですから、さらにこう表現したら良いのではないかと、いうことがありましたらお話をいただければと思います。9月末までに完成させて、市長に向けて

答申というスケジュールになっておりますので、この委員会でご意見を頂戴出来ないかと思っています。

委員

例年、審議結果というのは、文章で書かれていると思いますが、割と厳しい指摘もある中で、ここまでしっかりと明記されたことに関して驚いています。その意味では、委員の皆さんが真摯に総合戦略を見た結果を踏まえていただけていると思っています。皆さんもそうだと思いますが、豊中市をより良くする、さらにそれを未来に繋げるというような視点で、そのためにもう少しこうした方が良いのではないかというメッセージとして伝えているつもりですので、その辺はご理解いただきたいと思います。私たちも豊中市のことを考えて、しっかりご指摘をさせていただいているということをお伝えしておきます。

会長

他の自治体の委員会にも参加させていただいていますが、きちんと書かれているといつも思っています。

委員

いただく資料が的確に書いていただいているということにいつも驚きます。1点だけ、問題ということではありませんが、「審議結果」の2番の文章で「女性」と限定しているところだけ気になります。子育ては女性だけがするものではないし、女性が社会進出するときに女性だけが頑張るものでもないと思うので、時代の流れからしても、ここは「その世代の方々」にしても良いのではないかと感じます。また女性だけではなく、男性が自分のパートナーの為に豊中を選ぶというのももちろんあり得ると思うので、ここだけが少し気になった部分です。

会長

ブランド戦略の審議会では委員が、ターゲティングをはっきりさせてやっていくことが大事で、自然人口増というのは、適齢期の女性がいらっしゃることによって可能となるとおっしゃっていました。ここにターゲティングという言葉を書いているところからすると、私は的確かなと思っていました。確かにそのあたりをどうしていくかということ、一度事務局のほうでも練っていただければと思います。「子育て＝女性」と読めることの無いようにしておかないといけないと思います。社会人口増だけではなく、自然人口増ということをはっきりさせていくということは悪くないと思います。

委員

これだけ社会環境が変わってきて、今までなかったことも出てくるということなので、家族という形もいろんな家族の形があって、男性女性という夫婦だけではなく、パートナーや同性婚など、そういった人たちもこの市に来たらすぐく過ごしやすくなるようなになれば、自然増にはならないけれど人口増にはなるのではないかと思います。そういう制度が進んでいくと、そういうことがしやすいまちということも形としてひとつあるのではないかと思います。

委員

直接関係ないことですが、審議会委員の名簿があるのですが、この区分が、学識経験者、商工業団体代表、金融業代表、報道業代表、労働者代表、市民となっています。30年か50年くらい前の言葉になっているのではないかと思います。特に、労働者代表って何なのかという感覚があります。行政では自然な言葉なのでしょう。

事務局

国が示している手引きでは、総合戦略の審議・検討では、産業界・教育機関・金融機関・労働団体・メディアなど多様な主体の方々に入っていただくことが必要であるとされています。

委員

いろんな層の方が参加するということはわかりますが、もっと他の表現があるのではないかと思います。

事務局

ご指摘を受けて、ここの部分の表現を考えることはできるかと思います。ただ今回は国の方針に基づきこのように記載しています。

会長

それぞれの団体や業界、組織の言い方を参考にしても良いのではないかと思います。

委員

審議結果については、要点がまとめられていると思うので、分かりやすくなっていると感じました。その中で、2ページ目の「子育て環境をアピールすることが必要である」という点と、最後の「様々な施策を実施されているので、対外的にももっとアピールしてほしい」というように、「アピールすることが必要である」という文言が二つ出てくるのですが、行政素案のKPIにアピールに関してのKPIがないなと感じました。アピールするのに一番手っ取り早い、市民にとって身近なものは市の広報誌ですが、豊中市の広報誌を読むと、事務的で面白くないと感じます。他市のものを見たら、意外と面白いものがあります。子育てに関して、本当に実施したことの結果を楽しそうに載せたりしたら、アピールにつながるのではないかと思います。そういう面で、第5章は割愛されていますが、「情報共有・参画・協働に基づくまちづくり」というのは、少子高齢化、将来的人口減少の歯止めに、意外と広報活動が効いてくるのではないかとも思うので、割愛されるのはもったいないと感じます。

事務局

ご指摘ありがとうございます。今おっしゃっていただいた魅力発信の部分は、「4-2 (1) 都市の魅力と文化芸術の創造、歴史・文化資源の保全・活用を進めます」の「①魅力創造・発信の推進」に包含されると考えています。

委員

先日、広報誌のアンケートに協力しました。アンケートを行っているなら KPI に活かさないかと思いました。

会長

広報誌を楽しみに待っていただける市民の方が増えていくことは大事だと思います。

事務局

広報誌は当部が所管しております。貴重なご意見として承りたいと思っています。広報誌につきましては、実は非常に力を入れている分野で、過去には様々な賞も受賞しています。一方で、いつまでも紙でやるのではなくて、現在は SNS で情報発信することもしています。今いただいたようなご意見をふまえて、すみ分けみたいなこともあるのかも知れないなということを今聞いて思いました。事務的な情報というのは SNS でタイムリーに発信していき、月に一回の広報というのは、少し夢のあるような、面白いような、楽しみにしていただける作り方ができないかなと感じました。

委員

ほとんどイベントの告知になってしまっており、読みたいと思う記事がないように思います。例えば他市の広報では、地域でされている活動とか、町内会のことなど、割と身近なネタを、報告的に楽しく読ませてもらっているものもあるので、そういうのも良いのではないかと思います。

会長

いろいろご参考にされたみたいですが、参考になる自治体の広報があれば教えてあげてください。

委員

以前お渡ししたかも分かりませんが、沖縄の例です。

委員

インタビューシリーズとか、各図書館でおすすめの本を紹介するとか、いろいろな連載があったのですが、今はなくなっていると毎月見ながら思っていました。

先ほどご意見がありましたが、「子育て世代」と言えば、女性であろうが、子どもがいなかろうが、同性婚であろうが、含まれると思います。「その世代の女性」と書かれている意味が分かりづらいです。

あと、出だしの「選んでいただける」という表現が、ものすごくへりくだった感じがします。「選ばれる」といったフラットな表現をしている箇所もあります。「選んでもらえる」といった表現も考えられます。

会長

「選ばれる」で統一した方が良いと思います。

委員

「(2) 第3期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略について」の1番で「具体的施策及びKPIと基本的考え方がどうつながるのかわからない」や、2番の「様々なKPIが設定されているが、目標とKPIの関連性がわかるように」といった議論があったと思いますが、先ほどの話にも繋がるのですが、なぜこの具体的施策になったのか、なぜこのKPIなのかという背景、そこに物語があるともう少し分かりやすいと思います。なぜこれが選ばれたのか、この施策を行うことで人口増に繋がるということが見えてくるとより良くなると感じます。出てきた具体的施策やKPIが基本的考え方に繋がっているという整理はできていると思いますが、どちらかと言うと逆の方向で、なぜこれが選ばれたのか、背景を知りたいという思いです。

会長

「答申にあたって」の箇所でご意見は反映させてよろしいでしょうか。それとも、「審議結果」の箇所のご意見でしょうか。

委員

「審議結果」のところで、具体的施策及びKPIが選ばれた背景についての意見の記述があっても良いのではと思いました。

事務局

一度検討させていただきたいと思います。上から下だと分かるけれど、逆に下から見た時に上がどう選ばれるかというのが分かりづらいというご指摘だと思いますので、検討させていただきたいと思います。

委員

先ほどのご意見で、具体例としてフィンランドが出ていましたが、なぜこの具体的施策及びKPIが選ばれたのかというが見えてくると、確かにそれは人口増に繋がるだろうと理解しやすいと思いますので、もし可能であれば検討いただければと思います。

事務局

すべてのKPIに対して、なぜこれが選ばれたのか説明するというのは、非常に難しい部分もあると感じています。素案の中に落とし込んだ時に、書いているところと書いていないところのバラつきがあるのであれば、気になる場所ですので、頂いたご意見につきましては、最終的なバランスも考慮して検討させていただきたいと思います。

委員

今、難しいというお話がありましたが、難しい理由は、良い社会をつくろうという考え方があり、最初の人口を増やそうという題目と違う手段を持ってこられているからではないかという気がして仕方がないです。日本の歴史の中で人口が増えた時代をピックアップして、その時はそんなに良い世の中だったのかと問われたら、知っている限りではそんなことはあり得ないわけで、良い社会を作ったら人口増に結びつくという短絡はどうかという気はします。良い社会を作ろうという

ことに反対する人はいないと思います。ただし、人口増に対しては、もっと具体的な取り組みが世界中にあるはずですし、成功しているところ、失敗しているところの事例があると思います。

会長

この委員会というのは、まち・ひと・しごと創生総合戦略の部分で、特に人口増ということを中心に置きながら議論を積み上げるところです。人口増に繋がる施策として最も適しているものを優先的に書き込んでいくことのほうが、与えられた役割、諮問に対して誠実に答えることにつながると思いますので、委員のご意見はよく理解できます。最終的には市長の権限のなかで行われることになると思いますので、この委員会における優先順位のつけ方が表現に入っても良いのではないかとこの指摘は、納得できます。

委員

移住したいまちとして取り上げられている自治体で、高額な出産のお祝いを出す市があるのですが、こういうことを行えば自然人口増に繋がっているのでしょうか。

事務局

本市におきましても、例えば新婚家庭の家賃補助のような取り組みを過去に行っていたのですが、他の自治体の例を見ても、家賃補助の期間が終わったら出ていくパターンが多いということは聞いています。

委員

いろいろな自治体が期限付きの制度を持たれており、補助金や助成金がもらえる一定期間は、その世代がたくさん入って来るのですが、それが切れたとたん一気に出ていくという結果が出ており、結局定着をしないということがデータとしても出ている論文はいくつかあります。やはり定住させるというのが大きなミッションなので、もっと別のやり方のほうが費用対効果で見ると高いのではないかとまとめた論文があります。

会長

それでは今日頂いたご意見を踏まえて、答申書の作成を進めていきたいと思います。本来でしたら委員の皆様にも最終のご確認をいただくということをしなければなりません、時間の関係上、今回の意見を会長に一任していただいて、まとめさせていただくということでご了解いただければと思いますが、よろしいでしょうか。

全委員

よろしくをお願いします。

会長

それではそうした考え方で進めていきたいと思います。答申書が完成いたしましたら、皆様にもお送りしたいと思いますのでよろしくお願いします。

■ 5. その他

会長

最後に、案件5「その他」をお願いします。

事務局

(「市民ワークショップ」「答申」「今後の予定」について説明)

事務局

(事務局挨拶)

会長

本日の案件はこれですべて終了しました。

たくさんのご意見を頂戴出来て、役割を果たすことができたと感謝をしております。ありがとうございました。これをもちまして「第4回豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会」を閉会したいと思います。どうもありがとうございました。

(以上)